

A. タタリノフ『レクシコン』注釈 10 (文例集 1)

江 口 泰 生

1 『日本語会話入門』との関係

『レクシコン』は語彙篇、文例集、附録(平仮名・度量衡一覧)からなる。45aからは文例集である。以降、ゴンザ『日本語会話入門』と似た文例が並ぶ。

(1)

• господинъ управляетъ своймъ домо́мъ

(氏長は家系を統制する)『レクシコン』045a

• гднъ владѣетъ домо́мъ

(家長は家を統制する)『日本語会話入門』494

(2)

• поздравляю васъ

(あなたを祝福します)『レクシコン』045b

• поздравляю васъ и я также

(あなたを祝福します、私もそうです)『日本語会話入門』279

(3)

• когда ко мне придешь

(いつこちらに来ますか)『レクシコン』045b

• когда мене навестишь

(いつこちらに来ますか)『日本語会話入門』288

並べた例は完全には同じではないが、よく似ていて、両者に密接な関係があることは確かである。ではどういう関係にあるのだろうか。『日本語会話入門』の文と比較すると、波線部に示したように、(1)短縮語の明示、(2)文章の単純化、(3)単語の容易化、のような修正が施されている。総じて初学者向けの易しい学習書に改変しようとしたと見られる。

2 キの音価

『レクシコン』026aに見出し語「но́рдъ;и́лий се́верь」(北;あるいは北)について「кш́та(ク°シ°タ)くした(北)」という日本語訳がある。「кш」部分について、村山1965では東北で聞かれるキの破擦音化した音声を写したものとする。

金田一京助1932「北奥方言の発音とそのアクセント」(『音声の研究』5、日本音声学会。のち1992『金田一京助全集3』三省堂に所収)では「[k]が顎音化して[i]との間に涉りがはいる。たとえば[kç̟i]のように。それが進むと[çi]になってしまうのである」と述べる。

本堂寛は「岩手県の方言」(『講座方言学4—北海道・東北地方の方言—』1982、国書刊行会)において、キ・ギについて「中北部地域ではわずかに口蓋化・摩擦化して[k^hi] [g^hi]となる傾向」「南部地域は、この傾向がかなり目立ち、[k^hɸi] [g^hɸi]となることが多い」と指摘する。

佐藤稔は「秋田県の方言」でキは「[木][k^hɸi]…のように強い硬口蓋摩擦音としてあらわれる」(同上1982所収)と指摘する。

キの表記は上のような状態を反映していると見られ、破裂の後に摩擦要素が加わって破擦音になるような状態を反映していると思われる。

クについては江口2019.12「A.タタリノフ『レクシコン』注釈9(Ц~Я)」(『岡山大学文学部紀要』72)で述べた。『レクシコン』ではク音破裂音に摩擦要素が加わっていると思われ、また古代日本語のク音にも破裂のあとに強い摩擦要素があったのではないかと推定した。カ行のイ段にも同じような摩擦要素があったと思われる。

3 サ行・ザ行音の破擦音化

『レクシコン』にはサ行長音が破擦音化したと見られる例がある。

(1) ショウがチョウになる例がある。次例のように「ショウジ」が「チョオジ」とある。

027b, оконйца(窓) чй̆ ожй(チョオジ、障子)

(2) スウがツウになる例がある。「スウジ」が「ツウギ」(数字)とされる。

042b, чй̆сло(数) цугй̆(ツギ、数字)

(3) ジ音がギ音化する例もある。「ジシャク」が期待されるところに「ギシャク」と書かれている。

023a, маг'нй̆ть(磁石) гй̆шагу(ギシャグ)きしやく

この語例は『レクシコン』だけではなく、『天正狂言本』にも「ぎしやく」という例がある。堀季雄『濱荻』(三矢重松著『言語誌叢刊 荘内語及語釈』に収録、刀江書院、1930)には「じんばさう」を「ぎばさ」と言うところがある。「神馬藻、ジンバサウ=ほんだわら」のことらしい。「磁石」「神馬藻」は語彙的にこういう形として使用されていたと考えられるが、その背景にはやはり、漢語の、特に語頭が破擦音化するという傾向があったのではないかとと思われる。

(4) ズがヂョになる例がある。

004a, баснословй̆е(寓話を語る) надзо кй̆гашешшаре(ナヂョ キガシエツシャレ)

なそ きかせさしやれ(謎 聞かせさしやれ)

佐藤政五郎編『南部のことば』には「なじょ[なぞ—謎]」とあり、ナゾが拗音化したと書いているが、『レクシコン』はこのナヂョ形があったことを示すと思われる。これは漢語でもなく、語頭でもない。拗音化したとか、破擦音化したというより、ナンゾ(ナニゾ)の約まった形、あるいは佐藤武義1982「東北方言の語彙」(『講座方言学4 北海道東北地方の方言』国書刊行会)が述べるように「ナヂョ」は「ナデフ」の転で、「こは、なでうことをの給ぞ」(『竹取物語』)の言い方を受け継いでいる」としたほうが良いかもしれない。

4 四つ仮名ジ・ズの破擦音化

以上は語頭のキ、サ行長音、ジが破擦音化している例である。特に漢語の語頭に目立つ。なぜこういう現象が生じるのだろうか。

江口2015「タタリノフ著『レクシコン』からみた18世紀下北佐井方言の四つ仮名」(『国語と国文学』平成二十七年九月号)の表3(下に転載する)で示したように、四つ仮名は合流している。その音価はキリル文字との対応から、語頭では破擦音化してジ(ヂ) [dʒi]、ズ(ヅ) [dzu]、語中尾では摩擦音[ʒ] [z]であったと思われる。

『レクシコン』の表記 位置 元々の音価との対応 元々の音価		表3 キリル文字日本語における四つ仮名の表記		
		語頭	撥音のあと	非語頭
ジ	もともとジで「 жи」(ジ)を書く(正例)	005b, ジンギ(辞書)	010b, アンジ ズ+ゲマス+(安じ付けます) 029b, シンジマス+(通じます)	003b, フィツジ(年) 005b, タイジニ(大事に) 010b, トジキマス(届きます) 030a, トジル(届く) 037a, キジ(紐) 031a, ノジ(紐) 021a, カナジギ(金ぐず) 017b, クジラ(鯨) 005b, タイジニ シマス+(大事にします)
	もともとジなのに「 д жи」(ヂ)を書く(違例)	032a, ゼバン(襷袢) 022a, ゼフイ(慈悲) 005b, ジンギ(辞書) 025a, ゼギン(辞書の) 046a, ゼマイリ	ナシ	030a, ツィヂェ(通事)
ヂ	もともとヂで「 д жи」(ヂ)を書く(正例)	002a, ゼゴグ(他説) 046a, ゼマイリ	ナシ	026b, オヤヂ(親父)
	もともとヂで「 жи」(ジ)を書く(違例)	ナシ	ナシ	010b, トジギマス+(届きます) 020b, リョオジ ミマス+(療治診ます)
ズ	もともとズで「 ж у」(ズ)を書く(正例)	005b, (ジョオズィニ)(上手に)	011a, ピンズギ(藍字キセル)	008a, スズミ(雀) 023a, ネズミ(鼠) 028b, オンショ ポズ(和尙坊主) 031b, ジョオズィニ(上手に) 034a, スズミ(雀)
	もともとズなのに「 д ж у」(ヅ)を書く(違例)	005b, (ジョオズィニ)(上手に)	ナシ	022b, ジョオズィ フット(上手人)
ヅ	もともとヅで「 д ж у」(ヅ)を書く(正例)	ナシ	ナシ	ナシ
	もともとヅなのに「 ж у」(ズ)を書く(違例)	ナシ	ナシ	003b, ファズギガシ ガラナイ(恥ずかしがらない) 003b, ファズギガシ(恥ずかし) 016b, タズネサツヤレ(尋ねさしやれ) 016b, タズネサツヤレ(尋ねます) 031b, シズギノ カワ(静かな川) 033b, タズネサツヤレ(尋ねます) 033b, シズギガシ(静かな) 043b, シズギガシ(静かな) 029a, タズネサツヤレ(尋ねません) 017a, ワキミズ(湧水) 019a, エズ(縁側) 022a, ムズギシ(難しい) 022a, ムズギシ(難しい) 023a, イグサズ(戦路) 029a, イェズ(縁側) 029a, ファム+プズズ(半分ずつ) 011a, イギズギイ(息遣い) 029a, サガズギタイ(杯台) 041b, サガズギ(杯) 023b, カサズチ(金紐) 029a, ファム+プズズ(半分ずつ)

四つ仮名の合流で語頭の用例はほぼ漢語である。つまり特に漢語の、語頭の摩擦音が破擦音になったのである。こうした傾向が広く漢語の、ジ、ス、キの発音(クなども)などにもあったとすると、破裂音や摩擦音というグループ全体に破擦音化という現象が生じやすかったということになる。なぜそのような傾向が生じたのか、こうした状態になるためにはそれ以前にどういう状態でなければならないか、ということを考えてみたい。

5 日本語史との関係

古代語でもチとシが通う例がある。有名な例では太刀(タチ～タシ)があり、有坂秀世1935「奈良時代東国方言のチ・ツについて」(『国語音韻史の研究 増補新版』所収、1957)は東国のチが早く破擦音化していて、それを聞いた都人が中央語サ行のシに聞き取ったと解釈している。チとシは中央と東国で音韻の差があり、それをうまく写し取る条件が互いに備わっていた。その後の東国方言についてはあまり明らかではないが、上代以降の時代においても東日本ではイ段に破擦音化しやすい、アフリカータ化しやすいという傾向があったのではなかろうか。

さてエ列乙類は様々な起源を持つと思われる(森山隆1971『上代国語音韻の研究』桜楓社など)。一方、エ列甲類には、その一部にイ列乙類の語形を持つ場合がある。特に文法的な纏まりを持たないものを以下に例示する。

同一語であるかどうか、同一語源であるかどうかについては不明な点もあるが、三省堂『時代別国語大辞典』のほかに『岩波古語辞典』、森山隆1971『上代国語音韻の研究』(桜楓社)、阪倉篤義1966『語構成の研究』(角川書店)、松本克己1995『古代日本語母音論』(岩波書店)などを参照した。

以下の用例では、甲類は1で、乙類は2で該当音の後に数字で示すことにする。

① 中央語に関係するイ1がある類

ナメ1(滑らか)～なみ並?、ナメ1シ(滑らか)
ケ1ス(着る)～キ1ル上一段
ミ1・ケ1シ(御着し)～キ1ル上一
ケ1ヤニ(際だって)～キ1は極
サヘ1(鋤)～サヒ1(鋤の類、播磨風土記)
シメ1ス(示す)～シメ(標)、シミ(染)
シロ2シ・メ1ス(領有)、メ1ス(見る)～ミ1ル上一段
ウラメ1シ(恨めしい)～ウラム上一段説あり
コ2ト2サ・ヘ1ク(何やらべちゃくちゃ)～サヒ1ヅル、

② 東歌・防人歌に関係するイ1がある類

カヘ1ル(帰る)～カヒ1ル(帰るの東国語形)

カヘ1シ(返し)、タチカヘ1ル(立ち返る)、クツガヘ1ス(返る)～カヒ1ル(帰るの東国語形)

③ 付属的な一音節語で、東国語に関係するイ1がある類

ヘ1(家)～イヒ1・東国語形

ヤメ1(屋根の神格化?)、イヘ1(家)～家イへの東国語形イヒ1とイハ

メ1(女)～妻ミ1・東国語形

アヤメ1(菖蒲)～妻メの東国語形ミ1

アカラヲト1・メ2(赤乙女)、ナキ1・メ1(泣女)～妻メの東国語形ミ1

アカメ1(赤女)～妻メの東国語形ミ1

ヒ1・メ1(姫)～妻ミ1東国語形

ヒ1・メ1(蚕)～妻ミ1東国語形

ムスメ1(娘)～妻メの東国語形ミ1

メ1ヒ(姪)～妻メの東国語形ミ1

ヨメ1(嫁)～妻メの東国語形ミ1

ギ1・ヘ1(我家)～ワガイへ、イヒ1家、東国語形

ヲト2・メ1(乙女)～妻メの東国語形ミ1

クヘ1(柵の東国語、馬柵)～杭クヒ1

中央語でエ列甲類であるものが、イ列甲類にわたる場合がまま見られるということである。そしてこの現象は中央語にも見られることが①で分かり、東国語ではそれがより顕著であることが②③で分かる。

イ列の開口度が広がってエ列甲が出現したと考える立場もある。例えば妻ミが古く、その開口度が広がってメが生じたと考えるのである。たとえば坂本宗和1990「上代日本語のe甲、o甲の来源」『言語研究』98や、犬飼隆2005『本簡による日本語書記史』（笠間書房、2011増訂版による）などがそうである。この点については江口2021「ロシア資料と上代特殊仮名遣エ列音一下二段動詞の場合―」（風間書房『筑紫語学論叢Ⅲ』）では別の考えを示したが、ここではその問題はさておき、東国では先行研究、たとえば福田良輔1965『奈良時代東国方言の研究』（風間書房）、迫野虔徳1998『文献方言史研究』（清文堂）、屋名池誠2011「上代東国方言の形態変化と東歌の筆録者」（『芸文研究』100）などが示すように、東国でエ列甲乙の区別が危ういものであったとすれば、語彙量の増したエ列全体とイ列が近接した地域の場合では、なおさらイ列はその近接したエ列に対して、音の違いを際立たせるような改新を余儀なくされたのではなかろうか。

これはちょうど江口2021「東国文献の開音・合音・ウ段音」（『語文研究』130・131合併号）で述べたように、たとえば開音が合音に近づいたとき、多くの地域では簡単に合流せず、合音が開音との差を広げるために、開口度が狭まったり、円唇化したりするなどして、ウ段音に近づき、さらにまたその領域内の地域ではウ段音がイ段長音化したり、ウ段音が逆にオ段音化したりするなどして、なんとかして元々の開音・合音の差異を保とうとしたことを想起させるのである。

このようなことを考えると、エ列音とイ列甲類が近接した地域の場合、イ列はエ列との差異を保つために元の音色を保ちつつ、さらに新たな音色を付け加えるとか、長さを変更するとかいうことがあったのではなかろうか。その方法は開合の場合のように母音の開口度を狭めてエ列と距離をとったり、エ列乙類がエ段音に割って入ったために、子音を口蓋化させるということが選択肢としてありうるのではなかろうか。こうした反応の一つの例として、イ列子音を破擦音化するという方法がありえたのではなかろうか。

もちろん、『レクシコン』に見られる破擦音化は漢語の語頭イ段に顕著であって、出現条件が異なる。破擦音化が語種分別に働いているのではないかとも想像されるが、もともとその地域にイ列とエ列の近接があって、両者の合流を避けるためにイ列が破擦音化するという傾向があって、それが特に漢語に影響を与えたと考えられるかもしれないと思う。

6 『レクシコン』 注釈10(文例集1)

文例集			
976 (1)	045a	государь царствуе ^т вгосударстве	(君主は領国に君臨する)
		кубосама ку нийн сумйма ^с	クボサマ クニニ スミマス [°]
		くほ [°] さま くのに すみます	(公方様 国に住みます)
977 (2)	045a	господи́нь упра вляе́тъ свои́мь домо́мь	(氏長は家系を統制する)
		регй регйшу йево штагаи шймась	レギレギシュ イイエラ シ [°] タガイ シマス [°]
		れきれきしゃう イ江を したが い します	(歴々衆 家を従えます)
		*『日本語会話入門』494に「 <u>гднь</u> владе́етъ домо́мъ」(家長は家を統制する)という例文がある。	
978 (3)	045a	здешняго началь ника какъ імя на зывается	(此処の長の名前はなんというか)
		когоно тоносама но онао нанто юймась	コゴノ トノサマノ オナオ ナント ユイマス [°]
		こゝの とのさまの をなを なんと ゆい ます	(此処の 殿様の 御名を 何と言います)
979 (4)	045a	ікогда онъ прибы ^л в здешней городъ	(いつ彼はこの町へ到着したか)
		ізу ановто когоно мураса кймашта	イズ アノフ [°] ト コゴノ ムラサ キマシ [°] タ
		いつ あのと こゝに(ママ) むらさ き ました	(何時 あの人 此処の村さ 来ました)

980 (5)	045a	какой обычай име ють здешняго места народы	(どんな習慣が地元の人たちにあるか)
		キリル文字日本語なし	
		ひらがな日本語なし	
981 (6)	045a	всели вы благопол учно пребывайть	(あなたがたはみな安全でありますか)
		конодашу со согусайде гозаріма ска	コノダシュ ソ ソグサイデ ゴザリマス°カ
		このたしゅう みんなに そくさいて こさ りまし	(こなた衆 総 息災で御座りますか)
		*『日本方言大辞典』には「そくさい [息災] ①安産すること。②のんきなさま」があるが、意味的には 合わない。むしろ『日本国語大辞典』の「達者であること。健康であること。」の意が適切かと思われる。	
982 (7)	045a	в добромъли здоро в ве находят̑ся ваши домашнійк	(あなたの家では一家一門みな、健康は無事でありま すか)
		конодано ієни конодашуно ікѣке маги согусаиде го зарймасъка	コノダノ イイエニ コノダシュノ イク°ケ マギ ソグサイデ ゴザリマス°カ
		このたの イ江に このたしゅうの イけま き そくさいて こさりますか	(こなたの家に こなた衆の 一家まき 息災で御座 りますか)
		*『日本方言大辞典』に「まき 同族集団。一族。一門。血族」として東北各地に分布している。	
983 (8)	045b	поздравляю васъ	(あなたを祝福します)
		омайни о°ме машймасъ	オマイニ オム°メ マシマス°
		をまいに をめまします	(お前に お目 まします)
		*『日本+語会話入門』279に「поздравляю васъ и я также」(あなたを祝福します)という例文 がある。	
984 (9)	045b	когда ко мне приде шь	(いつこちらに來ますか)
		і°зу вадашунй кймасъ	イツ ワダシュニ キマス°
		いつ わたくしに きます	(何時 我だ衆に 來ます)
		*「コノダ衆」と「ワダ衆」は語形が対応しているので、この語形で通用していたものと思う。 『日本語会話入門』288に「когда мене навестишь」という例がある。	
985 (10)	045b	впорудне ілий когда небуť	(正午に又はこれまでに)
		фйрумадемо; ізьдемо	フィルマデモ; イジ°デモ
		ひるまでも; いつても	(昼までも 何時でも)
		*ロシア語「нибудь」参照。「イジ°デモ」はウ段からイ段へ母音が狭まっている。 『日本語会話入門』289に「завтрапослѣ завтра полудни или когда нибуť」という例文がある。	

986 (11)	045b	всегда случается не без ну*ды всякому	(いつでも誰にでも、必要でないことが起きるものです)
		изудемо (ママ) казу демо, мйнъна ни, ю ганайгодо гозаримашω	イズデモ カズデモ、ミンナニ、ヨガナイゴド ゴザ リマシヨ
		いつでも かつて、みんなに、よこないこ と こざりましょ	(何時でも かつて、皆に、用がない事 御座りま しょう)
		*村山1963aは「ヨガブナイゴド」と転写し、「用が無いこと」とする。「без нужды」(前置詞+「必要」) なので、村山訳が良いと思うし、「ю ганайгодо」(ヨガナイゴド)と読めると思う。ひらがな日本語だ けが間違っていると思う。ひらがな日本語だけが間違っている例は他にもある。 『日本語会話入門』300に「всегда случается небез нужды всякому」という例文がある。	
987 (12)	045b	надо ⁶ но что нйна ⁶ ть поговорить	(なんでも話す必要がある)
		ксамаво ірй масть нандемо саберймашω	ク ⁶ サマヲ イリマス ⁶ ナンデモ サベリマシヨ
		きさまを イります なんても さへりま しょう	(貴様を要ります 何でも 喋りましょう)
		*『日本語会話入門』303に「надо ⁶ но что ни есть поговорить」という例文がある。	
988 (13)	045b	тотъ либо друго будеть виновать	(彼か、別の彼か、咎人になるでしょう)
		арега,ановтога аямарій нарй масть	アレガ、アノフ ⁶ トガ アヤマリニ ナリマス ⁶
		あれが、あのひとが あやまりになります	(あれか あの人が 誤りになります)
		*『日本語会話入門』324に「либо тотъ либо другой будетъ виновать」という例文がある。	
989 (14)	045b	глупаго нйкакъ убита немо*но	(愚か者は鍛えようとしても鍛えることができない)
		до ⁶ дамоно нани фодо ошедемо ошайрарй маше ⁶	ドンダモノ ナニフォド オシェデモ オシャイラリ マシエン
		とんたもの なにほと をせても をしゃい られません	(鈍だ者なにほど教えても教えられません)
		*『日本語会話入門』325に「глупаго ни какъ на учить можно」という例文がある。	
990 (15)	045b	сердйтаго нйкакъ у веселить не мо*но	(怒っている人はどれだけ楽しませて 楽しませる ことはできない)
		фарао тазу- втовго намбоде мо омошйрога рашедемо омошйра гаримашень	ファラオ タズフ ⁶ トラ ナム ⁶ ボデモ オモシロガラ シェデモ オモシラガリマシエン
		はらを たつひとを なむほても をもしろ からせても をもしらかりません	(腹を 立つ人を 何ほども 面白がらせても 面白 がりません)
		*マ行の前の発音が[m]で実現していたと思われる。 『日本語会話入門』326に「но и сердитого можно ли какъ увеселить」という例文がある。	

991 (16)	046a	ежели тебе не у годно, то другому не твори	(もしあなたが好きではないと思うことを、人にする ものではない)
		на ^и демо к ^и сама ю гунайдо, ома найба, дайremo коною на годо са шесасъшарна	ナンデモ ク ^イ サマ ヨグナイド,オモナイバ, ダイレ モ コノヨナ ゴド, サシエサス ^イ シャル ^イ ナ
		なんても くさま よくないこと をまいは ^イ このよなこと させさしやるな	(何でも 貴様 良くないと 思う無ければ 誰もこ の様な事 させさしやるな)
		*『日本語会話入門』329に「ежѣ тебѣ не угодно тое другому не твори」という例文がある。	
992 (17)	046a	мы пйшемъ перомъ ꙗ японъ цы кистью	(我々はペンを用いる；日本人は筆を用いる)
		вадагушра фъ неде кагймасъ нйфонъжинъ фудеде	ワダグシ ^イ ラ フ ^イ ネデ(ママ) カギマス ^イ ニフォン ジン フデデ
		わたくしら ひねてかきます にまんちん(マ マ) ふてて	(私ら羽根で書きます 日本人 筆で)
		*『日本語会話入門』361に「мы пишемъ на-бумаге перомъ」、362に「арапы тростью」、363に「японцы и китайцы кистью」という例文がある。ロシア語・日本語に関係のない362の例文(中国人)だけが採用されていないと考えられる。	
993 (18)	046a	учитель пре ^и ла гаеть учение	(教師は一生懸命に教える)
		шйшосама шейдаш ^{те} ой масъ	シシヨサマ シエイダシ ^テ オイマス ^イ
		ひらがな日本語なし	(師匠様 精出して おります)
		*『日本語会話入門』367に「учитель пред-лагает учение」という例文がある。	
994 (19)	046a	ученикъ учй ^т ся невсему вдругъ	(生徒は一度に全てを学習できない)
		тенарай кодо мо ужй догйни нарай машень	テナライ コドモ ウジ ドギニ ナライ マシェン
		ひらがな日本語なし	(手習い子供 一時に習いません)
		*『日本語会話入門』371に「с-ученикъ учится не всяму друкъ」という例文がある。	
995 (20)	046a	прилежный пере нймаеть хорашее безпогрешения	(勤勉に面倒がらずにいれば素晴らしく間違いはない)
		шейдаште джи майри найба ю гу нараймасъ	シェイダシ ^テ ギマイリ ナイバ ヨグナライマス ^イ
		ひらがな日本語なし	(精出して じまいり 無いば 良く習います)
		*ロシア語「перенймаеть」は「пере+нй+маеть」(接頭辞+否定+面倒がる)参照。 ロシア語「безпогрешения」は「без+пог+решения」(否定+足+解決する)参照。 村山1965では「じまいり」「怠け」。このことばは佐井村で現在は用いられない」とする。 私案では「じまいり」は「じま+いり」で「じま」は『日本方言大辞典』の「ずま ②怠け者、おうちゃく」と関係する語彙だと思う。「ずま」の状態になることを「じまいり」と言ったものと思う。「栗原郡史」「登米郡史」に「じま 倭約」とある。古くは努力を出し惜しみする意味だったのではなかろうか。 『日本語会話入門』379に「прилежный перенймать 380 хорошо без-помѣшательства」という例文がある。	

996 (21)	046a	безпозволенія нійкуды неуходять	(許可なくどこへでも行ってはいけない)
		кйкнайде до госадемо ігіма шень	キカナイデ ドゴサデモ イギマシェン
		ひらがな日本語なし	(聞かないで 何処さでも 行きません)
		*『日本語会話入門』384に「без-позволенія нікуда неходить」という例文がある。	
997 (22)	046b	сій науки учаца гося украшають	(これらの学問の学習は人を立派にする)
		коно кагумонъ нарай угабеде фомефасъ(ママ)	コノ カグモン ナライ ウガベデ フォメファス°
		ひらがな日本語なし	(この書くもん習い 浮かべて褒めます)
		*村山1965はカグモン=「書くもの」とする。 『日本語会話入門』401に「сій науки учацагося украшають」という例文がある。	
998 (23)	046b	лице умываемъ навсякъ день	(毎日顔を洗う)
		каво майнийжи фйньнийжи арай масъ	カラ マイニジ フィンニジ アライマス°
		ひらがな日本語なし	(顔 毎日 日にち 洗います)
		*『日本方言大辞典』に「まいにちひにち [毎日日日] 毎日」で本例が採録されるほか、山形などに分布している。 『日本語会話入門』420に「лице умываем на-всякъ день」という例文がある。	
999 (24)	046b	г'радъ огра'дае'ся стеною	(都市は壁で守られている)
		мураса шйроно кагй шймасъ	ムラサ シロノ カギ シマス°
		ひらがな日本語なし	(村さ城の鍵します)
		*『日本語会話入門』469に「град о граждается стёною」という例文がある。	
1000 (25)	046b	царс'тво г'ранйч тъся рубежемъ	(王国は国境で隔てられている)
		кунйний сагай шймасъ	クニニ サガイ シマス°
		ひらがな日本語なし	(国に境します)
		*『日本語会話入門』470に「цртво граничится предёломъ и рубёжемъ」という例文がある。	
1001 (26)	046b	в'нутрь улицы іне реулкй	(内部には街路や路地)
		шйроно ужйни фйяй ма'жи	シロノ ウジニ フィヤイ マヂ
		ひらがな日本語なし	(城の内には早い町)
		*村山1965では「fiyaiは佐井村では現在firoi」としており、「城の内に広い町」と考えているものと思う。 『日本語会話入門』473に「в-нутрь улицы и переулки」という例文がある。	
1002 (27)	046b	івсякое с'троение	(そしてあらゆるものを作る)
		нанъдемо канъ демо цугурйма ^c	ナンデンドモ カニ°デモ(カンドモ) ツグリマス°
		ひらがな日本語なし	(何でもかんでも作ります)
		*『日本語会話入門』475に「общая зданія и всякое строеніе」という例文がある。	

1003 (28)	046b	су ^л я судить пра ваго с ^л виноватымъ	（裁判官は無実の人か、有罪の人か、処理する）
		каш ^л ра аямара най втово,а ^л йма ^л те сагъбаи ши масъ	カシ ^ラ アヤマラナイ フ ^ラ トラ、アヤマッテ サグ ^ラ バイ シマス ^ラ
		ひらがな日本語なし	（頭 誤らない人を 誤って 策配 します）
		* 村山1963や1965では「佐井村ではsagbaiという単語は用いられない」とする。しかし現在使っていないという指摘については、柴田武1967書評に「過去においてもそうであったということにはならない」という批判があり、そのとおりだと思う。 迫野虔徳1998『文献方言史研究』364に『梅津政景日記』の「策配」の例を挙げている。 『日本方言大辞典』には「さくばい 仲裁。調停。陸奥051 仙台058 宮城県仙台市」とある。かつて下北方言にも用いられたのではなかろうか。 『日本語会話入門』482に「судіа судить праваго с-виноватымъ」という例文がある。	

付記：本稿は2019年6月29日九州大学国語国文学会特別講演（伊都キャンパス イースト2号館D105）で「ロシア資料と日本語音韻」という題目で講演したものの一部である。

また本研究はJSPS科研費 JP20K00630「ロシア資料による日本語音韻史における音韻化・異音化についての機能論的研究」による。記して感謝申し上げる。

（続く）